

4 テクノロジー中心のビジネススタイルへ

TechToBiz

テクノロジー主体のビジネススタイルへの挑戦

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（以下、CTC）は、さまざまな分野でのサービスを考案するため、伊藤忠グループや社外のパートナーと協業し、テクノロジーを主としたマーケットイン型ビジネスの展開に向けて、情報通信事業グループ情報通信第1本部にビジネスプロモーション課を設置した。

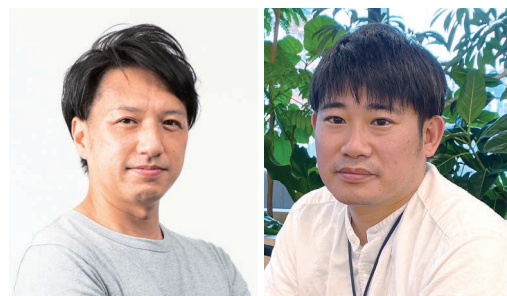
既存商材・技術ありきのビジネススタイルから必要テクノロジー主体のビジネススタイルへ

CTCは、2021年12月に大田区平和島にある物流センター内のN Space（CTCがNTTグループへの設備製品納入の為に、キittingや事前検証・検品等を行うために用意したスペース）の一角にユースケースを実体験できる場を設立した。

設立した目的は、取り扱い製品と保持する技術中心の営業活動・提案活動から社会に必要とされる技術を中心とした活動にシフトし、新しい視点での技術検証やマーケティング

を検討することにある。CTCは、自分達が推奨していく製品・技術が実際の場において、どのように利用できるのか、どういった問題点・課題があるのか、それを理解し、顧客と議論していくことが重要であると考えている。そのため、規模は小さくても実体験ができ、相互にアイデアを見いだせる環境が必要であると結論し、N Spaceの設立に至った。

ここでは、提案しようとしている技術・製品を実際に設置し稼働させ、技術の習得を行うと同時にユースケースを探りながら、課題の抽出と



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
情報通信事業グループ情報通信第1本部
プラットフォームテクノロジー第1部
ビジネスプロモーション課
（左）課長 中尾 彰伸氏
（右）吉田 孝介氏

対応策の検討を行っている。また、ショールームとしてユーザーに実際の動きや機能をみていただき、利用アイデアを考えて、議論する場としている。

TechToBiz

これらの活動を、TechToBizと掲げ、顧客と共に市場を開拓し、ITソリューションを共創していく。

社会課題解決を進め、顧客と共にビジネスを創ることを目指して第1弾として選んだのが、スマートシティ市場向けのソリューション企画開発である（図1）。

CTCは、全国各地の自治体のス

AI画像解析

道路や歩道の交通量や、イベント時に見かける行列など、人の流れを知ることは街づくりの大切な一歩となります。

この人流把握を、効率的且つ視覚的に把握できるソリューションをご提案いたします。

リアルタイム / 高精度

リアルタイムに混雑状況を把握
AIによる高精度解析

AIによる画像解析

- 性別、年代などの類推
- 方向別に人流を解析

時間/区画別の集計

朝/昼/夜など生活に合わせた解
混雑具合を的確に把握

様々な場所での活用

空港/観光地/駅など、人が多く集まる場所で利用可能

図1 スマートシティに関する情報通信事業グループの取り組み例（AI画像解析）



図2 「みなとまつり」ゲート（使用許諾済）

に協力をした。会場では、入場ゲート周辺に設置したカメラの映像をAIが解析し、会場内の入退場者の人数をカウントし、混雑の状況をモニタリングした（図2）。CTC、みなとまつり実行委員会は、この結果や参加者からの意見を取り込み今後の運営改善やコンテンツに活かしていく予定である。

TechToBizは、以下の方針を掲げている。

- ・GoTo Market / With Customer
- ・エンジニア発信による商材開発
- ・DXによるビジネス共創
- ・インフラBiz+α

今後も、既存のテクノロジー、CTCの得意なインフラ構築やSI分野、新しいテクノロジーとの組み合わせを継続・拡張し、技術を主とし、顧客と活用内容を確認しながら新しいアイデアを実現していく活動を継続していく。そして、新しいテクノロジーを課題解決に役立てるべくマーケティング・実装・検証を続けていく。今年度は、メタバース/XRに関する技術をビジネスへ展開する取り組みや、離島の地方自治体と協業し、IT・DXを島の活性化に活かす活動を推進中である（図3）。

スマートシティに対する要望・課題を理解するべく、内閣府、総務省、経済産業省、国土交通省により設立された官民が一体となって全国各地のスマートシティ関連事業を推進していく団体：スマートシティ官民連携プラットフォームに、2020年9月より参加している。

解決したい課題や求める技術（ニーズ）を調査し、いくつかの自治体にヒアリングを行い課題・要望を整理し、CTCの持つ技術と必要な技術の抽出を行った。注目したテクノロジーは、AI画像解析・デジタルサイネージ・ソーシャルディスプレイ。インフラとしては5G、Local5G、IoTを想定した。これらは、CTCの得意技術であり、ソリューション例を実装し、実際に稼働させ検証と検討を行っている。

この活動を続けている中で、取り組んだテクノロジーが様々な分野に活かせると考え、適用範囲を広げている。

こういった活動の実際の一例として、2022年7月17日と18日の2日間にわたり開催された「第21回 Kobe Love Port・みなとまつり」

（以下、みなとまつり）で、イベント運営の改善や参加者の利便性の向上を目的とした、AI画像解析を活用し、実証実験を実施した。みなとまつりは、神戸の「海」と「港」に感謝を捧げるために、2002年から市民・行政・企業が一体となって開催しているイベントで、毎年5万人以上が参加している。大規模なイベントの開催に制限がある中で、一般社団法人神戸青年会議所を中心としたみなとまつり実行委員会は、みなとまつりをより一層、安心・安全に楽しめるイベントとするために情報サービスの充実を検討していた。CTCはリアルな会場での運営管理情報を提供し、みなとまつりの運営

メタバース/技術の活用

- ・XR技術のビジネス利用
- ・DXへの展開
- ・XR技術のワーキング利用



離島活性への技術的挑戦

- ・安心安全に暮らせる環境作り
- ・主要産業の活性化
- ・高齢化/人口減少への取り組み

図3 TechToBizの今後の取り組み